

臨床研修が地域医療に及ぼす影響等に関する意見概要
(臨床研修制度と地域医療に関する懇談会 4/18 開催より)

- 四国の医療機関はみな常にドクターを標欠にならないように確保するため大変な努力をしている。研修医制度が行われると、研修期間の2年間は都会へ行こうといった人が増え、さらに地域に残らなくなることが危惧される。
- 臨床研修制度が実際に行われた場合の影響は、非常に大きな未知数の問題がある。それを十分に検討して行わないと、特に地方で大きな問題が起きるのではないかとということが心配。
- 問題は新たな入局者が出てこないこの1年か2年。中小病院では、例えば1人引き上げると標欠になる可能性がある。これは頑張って対応できる問題ではないため、非常に危惧される。
- 現実問題として、おそらく来年、再来年には、民間病院を中心に、どうしても医師が不足になってくると思われる。そのため、国の方でもいろいろ規制緩和すべきではないか。
- 2年間の過渡期について標欠の問題等を過渡期の制度として少し緩めて乗り切るということは大事。
- 東北では、ドクターがいなくなったことは確か。玉突のようにあちこちに行って問題になってくる。地方はドクターの絶対数がそもそも足りないので、こういうことが重大なことになる。これからもこういうことを考慮しながら、どこが悪いということではなくて、実態に対応していきたい。